

◆ 書籍 1

将来の中国原子力潜水艦部隊

書 評

「中国海軍の知られざること、特に原子力潜水艦は我々の安全保障の計画者を戸惑わせている。『将来の中国原子力潜水艦部隊』は最も正確な情報と最も要点を得た分析情報を提供している。このよく考え抜かれた論説は人民解放軍海軍に関し如何なる厳しい討論にも応じ得るものである。」

〔ジョセフ・W・プルアー 米海軍大将（退役）、
元米太平洋軍司令長官及び中国大使〕

「中国の潜水艦隊は、主に台湾との不測の事態に関連し、沿岸防御と海洋への侵入防止の観点から注視されてきた。次第に手強くなるディーゼル潜水艦の艦隊に付与されたこの役割とともに、中国の増強しつつある原子力潜水艦隊は象徴的な意味と、中国沿岸から離れ戦略的な任務にかかる実験の意味を超えつつあるのかもしれない。潜水艦戦の学者と専門家による、この非常に素晴らしい小論の論説は、中国の原子力潜水艦計画と政策について我々が知っている事と知らないでいる事のほとんどを一つにまとめている。米国やソビエトの海軍の経験と比較、対比することによって、著者たちは急速に近代化が進んでいる人民解放軍海軍の中で、原子力攻撃潜水艦と戦略ミサイル潜水艦の両方の取りうる役割について詳しい見解を述べており、そして米国の戦略や戦力構造とは、異なるシナリオを含むことを論じている。その成果は海軍力の将来の用法と海上戦略の発展に関係する誰をも魅了し、情報提供をする、指標となる研究となった。」

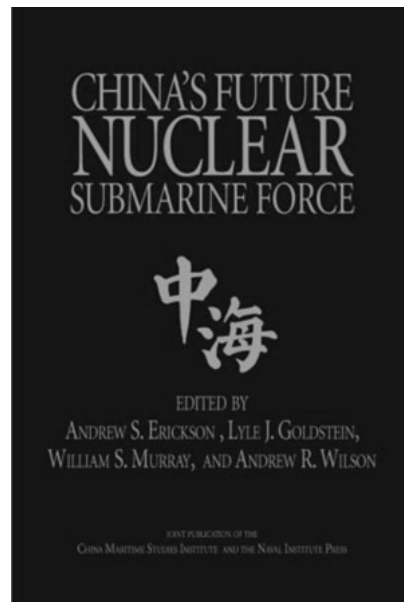
〔チャス W. フリーマン・ジュニア大使、プロジェクトインターナショナル社、社長〕

「これらの要素の多くは米国海軍大学によって『将来の中国原子力潜水艦部隊』と題した小論集で研究されている。この小論集は 2007 年にネーバル・インスティテュート・プレスによって出版された。この論説は、実のところ、中国のより広い海洋戦略と海軍の近代化を、その題名が示すよりはるかに深く掘り下げたものであるが、人民解放軍海軍の変革と潜水艦がこれから先立つ何年間に演ずるであろう中心的役割について、これまで公刊物とされたもので最も広範囲にわたる、公開された資料による解析を提供している。米国海軍大学はその研究や意見を、米国政府または米海軍によって取られた公式の路線から距離を置いていながら、『将来の中国原子力潜水艦部隊』はすでに人民解放軍海軍の水面下での戦闘能力の開発についての、機密扱いでない研究として指標となるものとなった。」

〔リチャード・スコット、Jane's Navy International, 2008 年 1 月 1 日〕

概 説

今日の海軍の戦略専門家や企画者の最も主要な懸念事項は、中国の戦略地政学的な挑戦の特性である。



将来の紛争といったことにつき、誰も確かな中国の意志を知りえないということを容認しながら、この派手な話題の本の編集者は、潜水艦のための中国の原子力推進の軌跡は、中国の世界に広がる軍事力たらんとする野望を示す最も良い指標の一つかもしれないと論じている。原子力潜水艦は、並ぶものがない生残り能力があるので、投入された海域での粘り強い行動のための理想的なプラットフォームであり続け、そして中国にとって勢力を投じる効率的な手段を提供している。

この小論集は中国の近代的原子力潜水艦隊の出現について、最先端の専門家の最新の考察を提供している。それぞれの寄稿には権威あるデータと、的を得た解析が詰まっている。この本は米国海軍大学において、大学の最近設立された中国海洋研究所の共同発起人である4人の教授であり解析家によって編纂された。

中国の潜水艦戦開発の不透明な特性を前提として、読者は中国の原子力潜水艦の能力の最も革新的な変化があったとして、起こりうる影響を考察する、この洞察力に富んだ研究から得るところが多いであろう。編集者は、このような可能性を知らないでいることは、戦略的には愚劣の極みでありまた米国の国家防衛という点での許しがたい怠慢であると考えている。

米海軍と米国の防衛の将来に心する者誰もが、この本を必須な読み物であると気付くだろう。

著者に関して

アンドリュー・エリクソンは米国海軍大学の戦略研究部助教授である。彼は中国と日本の国家安全保障の専門家である。

ライル・ゴールドスタインは米国海軍大学の戦略研究部准教授である。彼の主たる研究の志向するところは中国の海洋関連開発と核戦略である。

ウィリアム・マレーは米国海軍大学の机上作戦部准教授である。退役した潜水艦乗りとして彼の主要な専門的知識は中国の水中戦に関してである。

アンドリュー・ウィルソンは米国海軍大学の戦略及び政策部教授である。彼の研究は中国の軍事史と中国の軍事に関する古典的文献を中心にしてしている。

